

令和2年度第4回社会教育委員の会議 議事録

令和2年度第4回清瀬市社会教育委員の会議が令和2年10月26日に開催された。出席委員、議事の概要は次のとおり。

- 1 日 時 令和2年10月26日（月）午後3時00分～5時00分
- 2 会 場 生涯学習センター講座室1
- 3 議 長 高井正委員（議長）
- 4 出席委員 島澤良次委員（副議長）、田中金子委員、齊藤しのぶ委員、西田由美子委員、菊地俊一委員
- 5 事務局 坂田篤（教育長）、綾乃扶子（生涯学習スポーツ課長）
岡部剛（生涯学習係長）、若林幹輝（生涯学習係主事）

1 開会

高井議長：第4回社会教育委員の会議の開会を宣言

事務局：資料の確認

2 議題

（1）清瀬フロイデハルモニー補助金交付について

（田中委員）

第九合唱団に対する補助金であると思いますが、第九合唱団は毎年合唱をしている。

第九を行うには清瀬は人数が足りない。またなぜ第九合唱団に補助金を出すのか聞きたい。

（事務局）

第九合唱団という一団体に補助金を出すわけではなく、これは「フロイデハルモニー」という、一般市民へ広く参加を募り、今年市の50周年記念を盛り上げようとする市民の活動に対して補助金を出すという形となる。

（田中委員）

なぜ補助金交付の対象が第九合唱団になったのか聞きたい。

最初にどのような経緯があったかお聞きしたい。

(事務局)

繰り返しになるが、第九合唱団という単独の団体の活動に出すものではない。市政50周年を祝うため、市民有志が集まってこのような事業を実施したいとの申請があった。

(高井議長)

それでは、この補助金を支出することを了承してよろしいか。

※審議結果

異議なしで可決。

(2) 清瀬市生涯学習基本方針の策定について

(高井議長)

基本方針策定の議論の前に簡単な研修を行いたい。私が大学で行っている授業の抜粋からの説明と生涯学習方針の策定に伴う他市の状況などを踏まえ、簡単であるが説明したいと思う。(パワーポイントを元に説明)

(高井議長)

生涯学習基本方針には、日付などをつけてもらった方が、バージョンが分かり良いと思う。

(事務局)

次回以降バージョンが分かるよう明記する。

(高井議長)

感想や意見、気が付いた事などはあるか。

(松山委員)

前回は欠席して申し訳ございませんでした。

社会教育の専門家として、意見を述べさせていただければと思う。

社会教育、公教育として何故あるのか、それは住民の学習権の保証ではないかと思う。

コロナ禍において教育格差が出てしまった。また、以前から貧困の問題もあり、学ばな

くても学べないという状況はあった。一人ひとり全ての人が学ぶ権利があると思うので、行政がやるべきものであると思っている。

社会教育というものに対する出発点を全員で共有していければと思う。

学習の機会均等が重要であると思うので、方針の前段で整理していく必要があると考える。

(高井議長)

豊島区の策定について参考に説明したいと思う。

～説明～

なにか意見等あるか。

(事務局)

皆さまの意見を伺う際に、KJ法などで、皆さまの意見を伺えればと考えているが、いかがであるか。

(高井議長)

休憩も含めて4時15分まで時間をとるので、それまでに意見を付箋に書いていただきKJ法で進めていきたいと思う。

(15分間の休憩及び意見の書き出し)

(坂田教育長)

豊島区のパブリックコメントについて、意見22件、メール3件は大変残念である。少ないのもったいないと感じる。

(高井議長)

それは大変残念であった。

(坂田教育長)

市民が「生涯学習」とは何か十分わかるように、冒頭を書くべきではないだろうか。

市の方向性はまちがっていない、一つのキーワードとしては「循環」、学ぶ側から教える側へ循環していく。豊島区の「つどう、つながる、つくりだす」などのキーワードがこの方針にもあると良いのではないか。

～意見の発表～

(一人ひとり意見を発表し、ホワイトボードにカテゴリ別に貼り付ける)

(島澤副議長)

市と地域が協力しながら、ワクワクしながら学びを循環していければと思う。

(菊地委員)

学校側としては、次の世代を育てることが使命であると思っている。どのような成果が必要か、それは希望が必要であると思う。また自己肯定感を持つことを重点的に考えている。地域を通して自己肯定感を醸成して欲しいと思っている。例えば、お祭りなどのイベントを通して地域の人々が子どもを育てられたら良い。また、趣味としてのコミュニティはあるので、社会教育との立ち位置がどうなるのか、逆に教えて欲しい。そのような趣味の人たちを活用することも必要ではないかここに立ちながら感じた。

(高井議長)

例えば、バイクツーリングが趣味の人々が集まって交通安全活動を行う、などは良いのではないか。

(松山委員)

生涯学習、社会教育とはどのようなものであるか、共通理解が無い中で話している部分があると思う。学習権とは、社会教育の中では、とくに繋がりを重要視して位置づけていると思う。環境整備が行政の役割であると思う。今までは財源があったので与えられるだけでよかったが、これからは一人ひとりが生活していく力を得る必要があり、それを行政がフォローすることが重要であると思う。

もう一つは、豊島区のものとの差は、現状の課題が抜けているのではないかと思った。清瀬にはどのような課題があるのかをもっと整理すると良いと考える。そこから解決策、方向性が描けるとよいと思う。

(西田委員)

生涯学習とは何かなど、興味あるものについては自発的に情報を取りに行くので、その中で行政がどのように関わっていくのか私自身も学んで行きたい。

(齊藤委員)

全体として、以前の基本方針がないのでそれを知りたい。

(事務局)

方針は初めての作成である。生涯学習の方向性はマスタープランに入っていた。

(齊藤委員)

清瀬市らしさが少ないので、そういった部分をさらに盛り込んで欲しいと思う。
基本方針の目的で、難しい言葉が多く、すっと入ってこないように思えた。

(田中委員)

コーディネーターを多く作っていくと良いと思う。

(高井議長)

学びをコーディネートできる人材を多く育てる、という事でよろしいか。

(田中委員)

そのように考えている。勉強も長い間行くと良い経験となるので、積極的に仲間を作ることも必要ではないかと思う。人生100年時代なので、学び方を学ぶ循環が重要。

(高井議長)

社会教育士というものがこの春に出来た。
個人の学習成果が反映できる事も重要。
情報の提供や相談する場の提供。学んだことを活かす事＝補助金に似ているが、市民企画事業も必要。

(高井議長)

豊島区では非常勤職員の人が課題を絵に書いて表した。何か、表現の仕方で意見はあるか。

(教育長)

なぜ、行政が社会教育を推進しないといけないのか、もう少し議論をして欲しい。

(高井議長)

なぜ、公民館など無料の仕組みがあるのかなど。

(松山委員)

社会教育とは自治のための力を作るために歴史として始まっている。
自分たちで当事者意識を持って助け合いの中で仕組みをつくるなど、コミュニティを作る中で関係づくりが重要である。

(坂田教育長)

西田委員はNPO 法人として、また、齊藤委員は学校支援本部を行っている。なぜこれを行政が行うのだろうか。

(松山委員)

住民が力をつけるために行政は広く展開できるので、NPO を繋ぐなどは行政が行うべきではないかと思っている。この点に関しては、勉強不足な部分があるのでさらに勉強しようと考えている。

(坂田教育長)

本市では「都市格」が高いまちとして計画に書いてある。「都市格」とは市民が力を持ち住民自治を行って欲しいという意味が含まれている。

(松山委員)

最低限の学びを保証することが行政には必要である。

(高井議長)

セフティーネットとしての役割が行政にはある。

(菊地委員)

やはり、生活が安定してないと学習をすることには無理がある。学習はある程度の生活の安定が前提条件であり、その上で学力が必要であると感じる。

(高井議長)

なぜ、行政が生涯学習を支援するのか共通認識を持たないと議論が進まない。
方針についてはここまでとして、次回に繋げたい。

3 その他

報告

(報告1) 成人式について

(事務局)

学生ボランティアを5名程度お願いしたいと考えている。式典の運営人員としては、合

計30名程度で行いたいと思っている。

(高井議長)

式典の時間割はどのようなか。

(事務局)

式典は午前10時から10時半、その後、1時間のインターバルを挟んで3回繰り返す予定。運営については、1月10日(日曜日)9時から午後2時半頃までを予定している。

(報告2) 都市社連協第4ブロック研修会報告

(高井議長)

1時間半では足りない内容であった。西東京の取組として、放課後子ども教室についての説明があった。説明が写真のみだったのは少し残念であった。事例報告は内容が少し薄く感じた。公民館が盛んなので、そこに触れて欲しかった。公民館委員と社会教育とあまりうまくいっていないと感じた。

(報告3) 第51回関東甲信越静社会教育研究大会(新潟大会)の通常開催中止について

事務局から都市社連協交流大会・研修会の開催中止について説明。

4 閉会

次回 令和2年度第5回社会教育委員の会議 令和2年12月18日(金)

午後2時～5時

最初の1時間は教育委員と社会教育委員の懇談会。議題調整中。場所はアミューホール予定。

以上